

所属校種	校内研修（教科部会や学年会でも可）としてやってよかった（効果があった）事例を記入してください。
2. 中学校	気軽にお互いの授業（教科関係なく）を見合うようにしており、授業後に気になった点などをお互いに聞きあうようにしているため、教員のICT活用技術が向上している。
2. 中学校	実践報告会の前に、教科部会の先生の空き時間を合わせ、ICTサポーターとともにプチ相談会を設定するようにした。異動してきてはじめて使う先生が、使い方を理解するだけでなく、昨年度からいらっしゃる先生も、その方に教える中で、さらに効果的な使用方法について話し合えた。
2. 中学校	自分の作成した教材や使用しているソフト、アプリケーションの共有を頻繁にすることで全校でICTを活用しようとする意識を高めている。 また、共有する場を正確に設定しないことで、いつでも聞ける、いつでも提案できるようにしていること。
2. 中学校	先生方にGIGA校内研修会で行ってほしい内容についてアンケートを実施し、内容を工夫して取り組んでいる。8月の校内研修会では町のICT支援員の3名に來校いただき、分からないことは質問して答えて頂く形で行った。一人一人のニーズに合った研修にすることができた。
2. 中学校	教科部会で1人1台端末をどのように使うかを相談して教科で使い方を統一した。また、学校としての方針で話し合い活動では、ジャムボードを必ず使うようにしてみんなで共通行動を取るようにした。
2. 中学校	校内研修として月に1回、1人1台端末を活用した授業を発表し合った。その際、1人1台端末を使うことの目的を指導案上に明記してもらうことによって、議論がしやすくなった。目的に対して効果的であったものに関しては継続を。また、目的達成のための別の方法の発表も参観者から出てくるため、全体で効果的な活用方法を議論するきっかけをつくることができた。
2. 中学校	多忙な中でも、職員会議等を有効に活用し、取り組みについて共有している。また、教科会を必ず週1回実施する中で、日頃の取り組みに加え、要請訪問や研究授業などの指導案を検討することで、より効果的な使い方について議論することができている。
2. 中学校	授業内で必ずICTを用いた授業を計画してもらうことで、これまであまり活用していなかった先生もどのように活用することができるかを考えたり、アプリの使う方法を確認したりしていた。若手教員がベテラン教員に操作方法や授業での使い方を教える機会をとって、どの教員も活用できるようにしている。また、ベテランに教える機会を与えることで、若手教員の学校への組織的運営への参画の意識を高める。
2. 中学校	4月に学習集会を行うことで、今後の授業形態の変容やICTの活用について生徒の共通理解を深めることができた。また、全教科統一の振り返りシートを活用することで教員のICTスキルに加え、生徒のスキルも向上した。
2. 中学校	授業交流週間にICTを活用した授業を参観することで、他教科で活用するヒントを得ることができた。自己流のやり方だけでなく、他の教員の取り組みを見ることで、活用の幅が広がった。
2. 中学校	新任の先生が入り、新しい顔ぶれとなるなかで、GIGA担当やICTサポーターが演習を通してミライシードを活用した授業づくりについての研修をおこなった。実際に演習を通して模擬授業形式で研修を行ったことで、目標達成のためにICTを効果的に活用する授業が増えた。
2. 中学校	本校では、Teamsを活用して学校行事を運営している。1つの効果としては、コロナ禍の感染リスクや熱中症のリスクを抑えて全校生徒をつなげることができた。もう1つの効果としては、リモートによる動画配信を前提として生徒が活動を考えられるようになったことである。今までポスターや寄せ書き等で気持ちを伝えていたところをデジタル機器を活用できるようになったことで幅が広がった。
2. 中学校	授業の課題、導入、展開、まとめを整理し、授業改善を図る「授業改善シート」という書類を1学期中にすべての職員が作成した。その中にICTの活用方法を記入する欄をつくり、完成した書類を印刷室に全職員分を掲示した。職員は印刷の待ち時間などに掲示物を見て、授業改善の参考にしているようだった。
2. 中学校	グーグルチャットを使って、先生方の授業実践を月に一本ずつ投稿してもらっている。同じものに違うタイミングで投稿することができるので自由度が高く、いつでもだれでもどこでも実践を投稿したり、参考にしたりすることができる。また、全員がそろいやすいタイミング（職員会議等）で内容についての質疑を行うことで、会議の回数を減らすことができている。
2. 中学校	新しい機器を導入したりソフトウェアの操作の習得が必要になったりしたときに、できるだけはやく簡単な解説マニュアル（スクリーンショットをいれた1P～2P程度）を作成してTeamsの共有ファイルや校務用PCのDocuWorksに置くようにした。そして、空き時間などで個別に質問に応じるようにした。はじめに習得した先生がほかの先生に教えたりサポートしたりすることで全体のスキル向上につながり、利用率の向上につながった。
2. 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、毎週木曜日に全員（生徒・教員）が一斉に同じ操作をする活動「朝活（GIGA）」を設けたことで、生徒間、教員間で活用力に大きな差が生じることを防ぐことができた。また、使い方を定着させることができた。 ・Jamboardの活用方法を全体研修で確認したことで、生徒の考えを可視化するために活用する教師が増え、速やかに考えを共有することができるようになった。 ・ドキュメントを活用して、職朝時に連絡事項を速やかに確認・編集することを通して、短時間で職員全員で共有することができた。また、よく使うリンクを貼り付けておくことで、見たいファイルを探す手間を省略することができた。
2. 中学校	校内研修として月に1回程度、担当者が1人1台端末を活用した実践をC4thで共有した。GIGAスクール構想2年目ということもあり、ジャムボードやドキュメントなどを使用した実践だけでなく、「こころの数直線」など自分で調べて見つけたものを実践する人もふえた。「これは使ってみよう」という声も増え、教職員のChromebookを使うことに対する抵抗感が減ってきているように感じられる。